



特集

# 和寒中学校野球部

## 25年ぶりの全道大会へ

和寒中学校野球部（20名）は、6月22日に開催された第20回北北海道中学校野球大会で見事優勝し、全道への切符を手に入れました。

この大会は和寒町以北中川町までの全14チームが出場し、この大会での優勝は初となります。決勝は名寄東中学校と対戦し、一進一退の攻防が続く中、2回裏3年生の船本大地くんのヒットエンドランが成功し、そのままチームが勢いづき、10対5で勝利を手にすることができました。キャプテンの三好流平くんは、「全道初で強豪ぞろい。チャレンジャー精神で向かっていきたい」と抱負を述べ、優勝を目標にしているとのことでした。

また、監督を務める沼澤和範先生は「今の3年生は少ないが、1年生のころから一生懸命に取り組んでいた。部活をまとめていこうという気持ちが強」と優勝の要因を述べていました。

中学校野球部が全道大会に出場するのは、昭和59年の中体連以来、25年ぶり。

全道大会となる第25回全日本少年軟式野球北海道大会は、7月19日から21日に岩内町と共和町で開催され、1回戦を不戦勝で勝ちあがり、2回戦に上湧別中学校野球部と対戦しました。結果、延長8回といった白熱した試合展開のなか、4対3で残念ながら負けてしまいました。が、久々の全道大会進出に盛り上がりを見せていました。

平成20年6月20日（金）、青年海外協力隊として派遣される平岡真希子さん（和寒町出身）が町長を表敬訪問しました。

平岡さんは独立行政法人国際協力機構JICA（ジャイカ）の一員として2年間ウズベキスタン共和国に日本語教師として派遣されます。現地では、ウズベク人教師と協力し、日本語授業を担当し、



カリキュラムの作成や教材設備など日本語コースの運営全般にて活躍されることとなっています。平岡さんは大学在学中にカンボジアを訪れたことで「もっと発展途上国のことを知らなければならぬ。自分でできることをしたい」という思いが青年海外協力隊に参加するきっかけとなりました。

伊藤町長から「現地での交流を通じて、日本とは違う風土、文化を学んできてほしい」と声をかけられ、平岡さんは「ウズベキスタンでは、日本語がブームになっている。本当の意味での日本を知ってほしい。また、日本とウズベキスタンとの交流の橋渡しになればと思う」と話され、派遣にあたっての抱負を述べていました。

# 和寒から海外へ

海外青年協力隊の日本語教師として

平岡さん（和寒町出身）ウズベキスタンへ